

日本語の受身文と被影響性について

白明学*

目次

1. はじめに
 2. 受身文の下位タイプ
 3. 受身文が表す意味
 4. まとめ
-

1. はじめに

現代日本語における受身文は、「直接受身」と「間接受身(迷惑の受身)」という二つのタイプに分類する見解と、直接受身と間接受身の両方にまたがる性質を持つとされる「持ち主の受身」を含める三分法が一般的な見解であるが、その境界をめぐって統一的な見解が得られているわけではない。言い換えれば、二分法にしる、三分法にしる、主要な問題の一つとして、被害(迷惑)の意味を表すものと(間接受身)、そうでないもの(直接受身)との区分に関する問題があるからである。例文から確認する。

- 1) 犯人が警察に捕まえられた。【←警察が犯人を捕まえた】
- 2) 太郎は父に死なれた。【←父が死んだ】
- 3) 太郎は次郎に息子を殺された。【←次郎が太郎の息子を殺した】

上記の例文は、例1)が直接受身文で、受身文の主語が動詞の行為を直接的に受け、意味的にも中立であるとされるものであり、例2)は間接受身で、動詞の語幹が表す行為

* 名古屋大学大学院 博士後期課程 言語学

によって指定される項ではない、新しい要素が受身文の主語となり、その事態から何らかの影響（被害）を被るという意味を表すような文である。そして、例 3) が「持ち主の受身文」であるが、このタイプが、直接受身的とされる理由は、その主語がヲ格名詞句内のノ格としてではあれ、すでに能動文に存在していて、その由来が予想できるという点であり、間接受身的とされる理由は、受身文の主語になるものが動詞の語幹が表す行為の直接の対象ではないという点と、その意味も主に被害を表すという点である。

このことについて、白(2004)では、松下(1928/1930)における「利害被動」をベースに、日本語の受身文を統語的特徴と動詞の意味による「利害性」という観点から考察し、同じタイプ内の受身文は、動詞自体が持つ意味により利害という階層をなしながら、それぞれのタイプにより直接受身から第三者の受身になるにつれ、利害を表す表現から被害を表す表現に変わっていくことを述べた。そこで、本稿ではウチとソトという視点解釈の概念を視野へ入れ、統語的に均一ではない受身文のタイプが、視点・動詞の意味とどのように影響しあうのかを述べていく。受身文の下位タイプについては、その統語的・意味的特徴から以下のように捉えなおす。

報告型受身	非情物受身	動詞の表す行為の直接の対象が受身文の主語となるタイプ
評価型受身	直接受身	
	持ち主の受身	動詞の語幹が表す行為の直接の対象でないものが受身文の主語となるタイプ
被害受身	付随者の受身	動詞の意味役割を担わない要素が新しく受身文の主語となるタイプ
	第三者の受身	

本稿で提案する「報告型受身」、「評価型受身」、「被害受身」という概念は、「被影響性」という意味特徴から受身文を眺めたもので、この概念が統語的・意味的均一ではない日本語の受身文をとらえるのに、有効的かどうかを以下において論ずる。

2. 受身文の下位タイプ

本節では、受身文の下位タイプについて、従来からの研究をベースに統語的観点から、「非情物受身」、「直接受身」、「持ち主の受身」、「第三者の受身」に分け概略し、それらに加え新たに「付随者の受身」のタイプを設定する。

2.1 非情物受身

最初に、「非情物受身」であるがこれは、松下の「単純被動」、あるいは日本語「非固有の受身」などとされるタイプで、以下の例にあたるようなものである。

- 4) この野菜のごほうびは、三等以下にも、いろんな名目で配られたから、(ト)²⁾
【(だれかが)野菜のほうびを配る】
- 5) 発着場と行き先を書いた案内板が立られているが… (火)
【案内板を立てる】³⁾

上の例は、非情物が受身文の主語となり、結合価の減少を伴い、動作主の存在は非活性化されるか、表出の際は無標のマーカとして、「～によって」が用いられるタイプである。この構文は従来の研究からも明らかにされているように、動作主と対象という関係の中で、対象に何が起きたか、またはそのおかれた状況に焦点を当て、事態そのものの生起を中立的な立場から叙述するものである。よって、意味面でも能動文と等価の対応関係をもつ。

2.2 直接受身

このタイプの構文は、松下の「自己被動」、鈴木(1972)の「直接対象の受身」と「相手の受身」に相当するもので、例文としては次のようなものが挙げられる。

- 6) “うちの先生も…中略… 暴力団に脅かされたりすることがありましたよ” (火)
【暴力団がうちの先生を脅かした】
- 7) トットちゃんが、みんなから拍手されたあと、 (ト)
【みんながトットちゃんに拍手する】
- 8) 陽子ちゃんは井尾の奴に石を投げられて、 (氷)
【井尾が陽子ちゃんに石を投げる】

上の例では、それぞれ能動文のヲ格名詞、ニ格名詞が受身文の主語となっているタイプの文で、例文6)は、鈴木におけるいわゆる「直接対象の受身」に当たるものであり、例7)と8)は「相手の受身」にあたるものである。両者の間には、動作の対象と動作

2)本稿では、実例と作例を併用するが、実例の出典については本文末の「用例を採集した作品及び本稿における表記」を参照されたい。なお、出典の表記のない例文は、筆者の作例である。

3)非情物受身文には、動作主マーカー「～に」が用いられる場合、例えば「新しい試みが部長に否定された」のような例もあるが、この問題の議論の細部には立ち入らず、本稿では「～によって」構文のみを対象とする。

の相手といった意味役割の違いはあるにせよ、動詞の語幹が表す行為に直接関わっているものが、受身文の主語になっていることから、本稿では一つのグループにまとめて「直接受身」とする立場をとる。

2.3 持ち主の受身

「持ち主の受身」は、能動文における動詞の対象となる「ヲ」格の名詞句内で、修飾機能をもつ「ノ」格名詞が受動文の主語となるものである。この際、「ノ」格名詞と「ヲ」格名詞との間には、持ち主と所有対象という意味関係があり、例文としては次のようなものが挙げられる。

- 10) ママは、背中をつねられているかのような顔をした。 (火)
 【ママの背中をつねる】
- 11) 弘は隣の人に一人息子を殴られた。
 【隣の人が弘の一人息子を殴った】
- 12) トットちゃんが、あと、ちょっとでドア、というときに、
スカートをつかまえられてしまった。 (ト)
 【ママがトットちゃんのスカートをつかまえる】

上の10)~12)では、ヲ格名詞句内のノ格がそれぞれ受身文の主語になっており、その受身文の主語がヲ格名詞の広い意味での持ち主になっている。その関係は、例10)が「身体部分」、例11)が「肉親」、例12)が「もちもの」になっている。

この「持ち主の受身」に関しては、「直接受身」と「間接受身」の両方にまたがる性質を持つとされ、統一的な見解は得られていないが、「持ち主の受身」が両者を媒介するものとする観点から、例えば寺村(1982)では、持ち主とその所有対象の関係に注目して、その所有対象が「身体部分」から、「肉親・親類・縁者」、「もちもの」、「占有している空間」へと変わるにつれ、迷惑の度合いが「直接的」から「間接的」に移っていくと述べられている。しかし、その分析については吟味する余地があると思われる。たとえば、同じ「身体部分」に関する表現であっても、例10)の「背中をつねられた」と「弘は洋子に頭を撫でられた」という文は、両方とも迷惑の意味を表している文であるといえるかどうか、あるいはあるとすれば、迷惑の度合いは同じなのか、という問題がある。この問題については、次節で検討することにする。

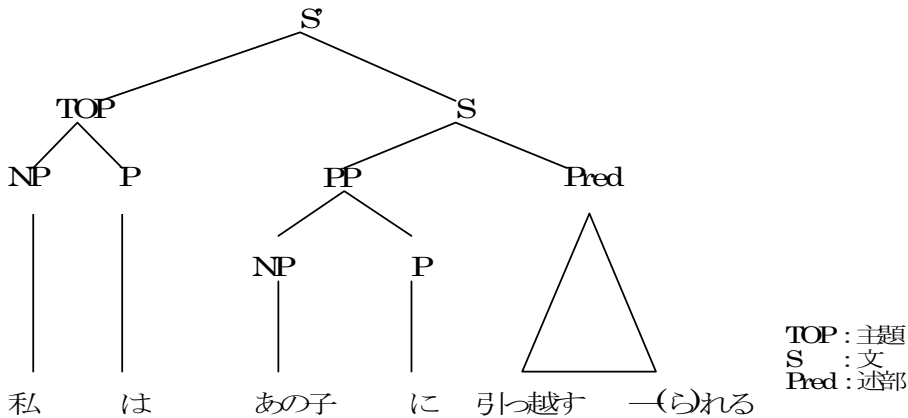
2.4 第三者の受身

四番目に、「第三者の受身」であるが、本稿での「第三者の受身」とは、松下における「所有物自己被動」と「他物被動」、工藤(1990)の「関係者受動」、鈴木の

「第三者の受身」に相当するもので、例文としては次のようなものが挙げられる。

- 13) 『でも、あの子が卒業する日が楽しみだったし、何か不満で(あの子に)引越されるようなことがあったら、 (由)
 【あの子が引越す】
- 14) 自分の子ばかりか、よその子にまで泣かれると情けなくなってカットした。 (氷)
 【よその子が泣く】
- 15) (僕は)なんか突然な感じで電話を切られちゃった。 (火)
 【(相手が)突然電話を切っちゃった】

上の例から見られる「第三者の受身」の大きな特徴は、これらの受身文における主語の特性である。つまり、この構文の主語は、何れも動詞によって割り当てられた項ではないという点である。この統語特性より「第三者の受身」は、動詞の意味役割を担わない主語と述語節から構成される主－述関係として捉える分析が広く採用されている。その主題文の構造を表示すると、例えば例14)は以下になるであろう。



2.5 付随者の受身

最後に、「持ち主の受身」と「第三者の受身」の間の中間的な構文のようなものの存在について触れておきたい。次のような例である。

- 16) 啓造は、ますます夏枝がわからなくなった。あの日ルリ子が殺されたことに責任を感じているのなら、首にキスマークをつけられるようなことは、決してしないはずではないのか。 (氷)
 【啓造が夏枝の首にキスマークをつける】

- 17) 帰りの車の中でも志村は、「大丈夫ですか」と何度も振り返ったがひと言も口をきかなかった。…中略… 私の具合よりも車で吐かれることを恐れているのだ。(家)
 【私が志村の車で吐く】
- 18) 「体をこわして、縁を切られました」 (ト)
 【彼が私と縁を切った】
- 19) 洋子と親し気に立ち話をしているところを学校の先生に見られたらまずいと思い、
 【学校の先生が私が洋子と親し気に立ち話をしているところを見たら】 (慧)

上の例文16)~17)では、能動文におけるニ格とテ格名詞句内のノ格名詞が、そして例18)では、ト格名詞がそれぞれ受身文の主語になっている。これらの例文は、受身文の主語となっているものが既に能動文において表出されているという点では、前述の「持ち主の受身」と共通しているといえよう。しかし、両者の間には以下のような、もとの文における意味役割・格・文法機能のレベルでの差異が見られる。

12')		となりの人が	<u>弘の一人息子を</u>	殴った	
	意味役割	動作主	対象		
	格	主格	対格		
	文法機能	主語	目的語		
16')		啓造が	<u>夏枝の首に</u>	キスマークを	つける
	意味役割	動作主	対象	対象	
	格	主格	対格	対格	
	文法機能	主語	目的語	目的語	
17')		私が	<u>志村の車で</u>	ゲロを	吐く
	意味役割	動作主	場所	対象	
	格	主格	所格	対格	
	文法機能	主語	副詞句	目的語	
18')		彼が	<u>私と</u>	縁を	切る
	意味役割	動作主	仲間	対象	
	格	主格	仲間格	対格	
	文法機能	主語	副詞句	目的語	

以上より、「持ち主の受身」におけるヲ格名詞は、格の階層性において、統語機能上の中心的な役割を果たす「文法項」であるのに対し、ニ格・テ格・ト格名詞等は副詞的な

要素として「非文法項」とされることと、また意味の上で、被害を表していることから、これらの例は、動詞の意味を担わない要素が受身文の主語になり、動詞によって表される事態から間接的に影響を受けるという特徴を持つ「間接受身(第三者の受身)」に非常に類似したものと考えられる4)。

そして例文20⁵⁾のように、主節の動詞によって直接割当てられた要素ではない、つまり内包節における主格名詞が、受身文の主語になっているタイプの文については、今後更なる検討が必要であるが、動詞の表す事態の成立に直接関与していない要素が、受身文の主語になることから、「第三者の受身」に近いものと考えられるのではないかと思う。

以上より、動詞の語幹が表す事態に直接的ではなく付随的に関与しているものが受身文の主語となる、上のようなタイプの文をまとめて本稿では、仮に「付随者の受身」と呼ぶことにする。

本稿の「付随者の受身」タイプのような文の存在については、すでに山内(1997)でも「属格昇格型受身」という用語で取り上げられており、この種のタイプ以外にも、以下のような構文も含まれている。

20) 太郎は母に死なれた。 <←太郎の母が死んだ> (山内1997)

山内では「太郎は雨に降られた(←雨が降った)」のような構文のみを「新規主格型受身」と名付け、「第三者の受身」として分類しているが、本稿の立場は、山内の分類とは見解を異にする。以下、「持ち主の受身」と「第三者の受身」との対比から、「付随者の受身」タイプの設定の理由を述べる。

- ◆ 上述したように、「付随者の受身」は、格・意味役割・文法機能のレベルにおいて「持ち主の受身」とは異なる。
- ◆ 類型論的に見て、対格(ヲ格)名詞が受身文の主語になるタイプは通言語的に見られるパターンであり、その対格名詞句内の所有格名詞が受身文の主語になる「持ち主の受身」は日本語以外にも存在する(韓国語・中国語など)が、非文法項内の所有格が受身文の主語となるタイプ(付随者の受身)は許容しない言語が多い(韓国語、ゲルマン語、ロマンス諸語など)。

4)副詞的な項を取る動詞には、上のような他動詞以外に、自動詞もある。例えば、「住む、近寄る、近づく」などといった動詞で、直接受身は作れず、間接受身にしかならない。【変な人が私の隣に住んでいる】→【私は変な人に隣に住まれて困っている】のようなケースである

5)「～ところを」構文についてHarada(1973)では、自動詞との共起可能性を根拠に、「～ところ」は目的語ではなく状況を表す補語であると指摘している。この指摘を採用すると、上の例文は自動詞ベースの受身文の一種といえよう。

- ◆ 「持ち主受身」は「太郎は次郎に息子を殺された」と「太郎は先生に絵をほめられた」のように、その意味の解釈に動詞の意味が影響するが、「付随者の受身」は、動詞の意味に左右されないという点において「持ち主の受身」とは異なり、「第三者の受身」と共通する。
- ◆ 先述したように、受身文の主語が既に能動文において表出されているという点では、「持ち主の受身」と共通して、「第三者の受身」とは異なる。
- ◆ 山内で「属格昇格型受身(持ち主の受身)」の一種とされている例は、所有関係の想定が制限的である。

- a. 太郎は母に死なれた 【←太郎の母が死んだ】
- b. 太郎は花子に死なれた 【← * 太郎の花子が死んだ】

上のように、同一の条件のもと、「母」という単語を「花子」に変えると、所有関係が想定困難になるが、「付随者の受身」にはそういう制約が見られない。

- a. 私は愛人に会社に電話をかけられた
【←愛人が私の会社に電話をかけた】
- b. 太郎は愛人に会社に電話をかけられた
【←愛人が太郎の会社に電話をかけた】

よって、例20)のようなタイプは、「第三者の受身」として分類する方が適切であると考えられる。

3. 受身文が表す意味

本節では、視点解釈レベルにおける「ウチ・ソト」の概念、そして動詞の意味が、統語的特徴によって分類された構文のタイプに、どのように関係しているのかを、受身文が表す「被影響性」という観点から述べ、意味的特徴をもとに「報告型受身」、「評価型受身」、「被害受身」の三つのパターンを設定を提案する。なお、本稿では視点解釈（共感度）において、話し手(または表現者)が被動主を1人称またはそれに準ずる者として位置づける解釈を「内位」の読み、外側に位置づける場合は「外位」の読みと呼び、「ウチ・ソト」という用語の代わりに用いることにする。

3.1 非情物受身と視点解釈

まず、「非情物受身」であるが、この構文は動詞の行為の影響を受けるというよりは、非情物を主語に立て、その主語に起きた変化、またはおかれた状況を客観的に捉える文であるので、意味・コンテキストに左右されず、文が表す「被影響性」関しては中立的構文である。

- 21) 新しいゲーム機が発売された。
- 22) バグダードが破壊された。

上の例のように、「非情物受身」は主語である「ゲーム機」と「バグダード」に起きた変化に焦点を当て、他動詞的な出来事を自動詞的に捉えているもので、非情物が主語になっているため、主語に共感を寄せその主語の受ける影響を表す文としては捉え難い。このように、主語の受ける影響を問題とするよりは、事態の生起ないし変化に焦点を当て客観的に叙述し、対応する能動文と同等な意味を持つ受身文を、本稿ではその意味的特徴から「報告型受身」と呼ぶ⁶⁾。

3.2 直接受身と視点解釈

「直接受身」の場合は、視点解釈において、「内位」の読みも、「外位」の読みも可能なタイプで、「内位」の読みの場合は、動詞の意味がそのまま文の意味に直結する。まず、「内位」の読みの場合である。

- 23) うちの息子は先生に愛されている。
- 24) 私自身は直接差別を受けたりいじめられたりしたことはないんです。(由)
- 25) 太郎は3年間も同級生にふたれたり、けつとばされたりした。
- 26) 私は妻に文句を言われた／恨みを持たれる

例23)では、「愛する」という動詞の影響により文全体がプラスの解釈になる例であり、24),25)は「いじめる・ぶつ」などといった動詞の語幹が表す意味によりマイナスの意味になっている例であると考えられる。それから26)については、「言う・持つ」などのような動詞の場合は、それ自体は中立的な意味を表すものであるが、「文句を言う」「恨みを持つ」のような連語あるいは慣用句の表す意味が否定的なものであるため、受身文全体としての

6) 「非情物受身」の中には、益岡(1991)で示されているように動作主マーカーに「～に」が用いられ、「潜在的受影者のいる受身文」とされるタイプがあり、「報告型受身」として捉えられるような文も存在するが、この問題の細部の議論には立ち入らない。

【新しい試みが部長に批判された】

意味もマイナスの解釈になっている例であると考えられる。このように、表現者が被動主寄りの立場に立って動詞が表す行為の影響を受け、その影響が主語にとって好ましいか、好ましくないとかといった被影響として捉えるタイプを、ここでは「評価型受身」と呼ぶことにする。

一方、人（有情物）を主語とする直接受身の中でも、「報告型受身」のように特殊な意味のない中立的な表現もある。

27) 新人教師が生徒に乱暴された。

例27)における「乱暴する」は、動詞自体が持つ意味としてはマイナスであるのにもかかわらず、それほど被害の意味が感じ取れない。これは、受身文の主語の立場から述べられているというよりは、よその立場から事態の生起を述べることにより、動詞自体が持つ意味の関与度が弱まっていることに起因するものであると考えられる。下の例文との対比から見る。

- 28) a. 私は高校生に乱暴された。
b. 30代の女性が高校生に乱暴された。

上の例28a)は、主語の「私」が「内位」の読みしか許容しない1人称であるため、被動主が受ける被影響性の意味を表すのに対し、28b)のように主語が「外位」の読みとなる場合は、被動主が受ける被影響性はほとんど感じ取れない。言い換えれば、「直接受身」には「外位」の読みを許すものもあり、「外位」の読みのもとでは被動主が有情物であっても、動詞が表す行為を被るというよりは、事態そのものを客観的に叙述する「報告型受身」となる⁷⁾。

3.3 持ち主の受身と視点解釈

三番目に、「持ち主の受身」であるが、この構文は主に「評価型受身」として用いられ被害の意味を表すことが数多あるが、そうでないようなケースも少なからずみられる。

- 29) 事業の失敗で、父は自尊心を傷つけられた
30) 太郎は先生に人格を無視された
31) 太郎は先生に才能を認められた

7)主語が「外位」の読みをとる場合は、「30代の女性が高校生によって乱暴された」のように、非情物受身に用いられる動作主マーカー「によって」の使用が可能な場合もある。

- 32) 私は救急隊員に命を助けられた
- 33) 僕はワンちゃんに顔中を舐め廻された

上の例29)、30)における動詞「傷つける・無視する」は、それ自体マイナスの意味を持つもので、受身文全体としても被害を表している例である。一方、例31),32)では、被害というよりは「認める・助ける」という動詞自体が持つ意味により、受身文の主語にとっては好ましいことだということを表すプラスの解釈になっている。したがって、この「持ち主の受身」の場合も、「直接受身」のように被影響性の解釈においては、動詞の持つ意味が密接に関係しているといえよう。なお、例33)の場合は、動詞そのものは中立的な意味を持つものと考えられるが、文の解釈に際しては両方の解釈が可能な例であると考えられる。つまり、「僕はワンちゃんに顔を舐め廻されて嬉しかった／いやだった」のように、主語にとって好ましいことも、好ましくないことも表現することができる例である。2節であげた例「弘は洋子に頭を撫でられた」という文の中の「撫でる」も、動詞が中立的な意味を表すものなので、文脈によりプラスの解釈にも、マイナスの解釈にもなりえる例である。

このように、「持ち主の受身」は、動詞の意味に影響されながらも、文脈によりプラスとマイナスの両方の解釈ができる両面的な構文であるということがいえるので、このことが、統語的特徴だけでは「持ち主の受身」を精確に捉えることができない理由であると考えられる。

一方、視点解釈からすると、「持ち主の受身」も「直接受身」同様、「外位」の読みを許容する文が可能な場合がある。

- 34) 私／お母さん／30代の女性が 自転車の男にかばんをひったくられた。
- 35) 私／お母さん／登校中の女子生徒が 通り魔に背中を刺された。

上の例のように、主語が「内位」の読みとなる「私／お母さん」の場合は、被動主の被った影響を表す「評価型受身」の解釈を取ることができる。それに対し、主語が「外位」の読みとなる場合は、被動主が受ける被影響性はほとんど感じ取れず、事態の生起を客観的に叙述する「報告型受身」の用法として機能するといえる。

3. 4 付随者の受身・第三者の受身と視点解釈

最後に、「付随者の受身」と「第三者の受身」であるが、この二つのタイプは動詞自体が持つ意味にかかわらず、マイナスの解釈しか成立しない構文である。そして、視点解釈においても「外位」の読みは許容せず、「内位」読みしか成立しない。このタイプを本稿では、意味面の特徴から「被害受身」と呼ぶ。以下の例から確認する。

- 36) 僕は隣の人に家の前にごみを捨てられた。
- 37) 「あたし、お店を一軒つぶしてるんですよ。亭主と一緒にやってた店だったんだけど、左前になったとたん、その亭主にも逃げられちゃいましてね。」 (火)
- 38) 「アボジは女性の八字(運)も悪かったみたいね。二人の奥さんたちに死なれて、3人目が由熙のオモニだったらしいわ。」 (由)
- 39) 私は娘に外国に就職された。

上の例は、36) が「付随者の受身」、37)~39)が「第三者の受身」の例であり、「捨てる・逃げる・死ぬ・就職する」などのように動詞自体が持つ意味は多様であるが、受身文の意味としては何れもマイナスの解釈を含む被害の表現となっており、この点が、「持ち主の受身」とは性質を異にするところである。話し手（表現者）が主語寄りの立場に立っていない、次のような文は不自然な文になる。

- 40) ??大阪に住んでいる女性が家の前にごみを捨てられた。
- 41) ??カメルーンの首相が奥さんに死なれた。

では、なぜこの構文は「内位」の読みしかを許容しないのかが問題になるが、理由としては、動詞の意味役割を担わない新しい要素が受身文の主語になるためには、事態の成立に直接参加しないにしても、動詞の行為によって成立される事態の舞台（場）にいることにより、何らかの形で関わりを持たなければならないからであると考えられる。このことは、このタイプの構文が動詞の意味と関係なく被害の意味が生ずることともつながると考えられる。すなわち、「私は娘に外国に就職された」のような文における主語「私」は、当該の事態の成立に関与している要素ではないが、《娘が外国に就職した》という事態が《私という場において(娘の父という関係として)》起き、「私」はその出来事から不本意に影響を被っているので、主語の「私」にとっては好ましくないという意味が生じているのではないかと考えられる。

4. まとめ

以上、本稿では日本語の受身文が表す「被影響性」について、統語特徴・視点解釈・動詞の意味との関わりから考察、統語的に均一ではない受身文のタイプが、視点解釈・動詞の意味の関与度においても異なる様相を呈することを示し、「被影響性」という意味特徴から「報告型受身」、「評価型受身」、「被害受身」の三つのパターンを

提案した。それらをまとめると以下の表になる。

意味特徴	統語特徴	視点解釈	文の意味
報告型 受身	非情物受身	「外位」の読み	動詞の意味に関係なく中立
評価型 受身	直接受身	「内位」と「外位」 の読み	「外位」の読み⇒動詞と関係なく中立 (報告型受身)
	持ち主の受身		「内位」の読み⇒動詞の意味が関与
被害受身	付随者の受身	「内位」の読み	動詞の意味に関係なく被害
	第三者の受身		

【参考文献】

- ・ 奥津敬一郎(1983)「何故受身か？」『国語学』132集 国語学会 pp.65-80
- ・ 工藤真由美(1990)「現代日本語の受動文」『ことばの科学4』むぎ書房
- ・ 柴谷方良(1997)「迷惑受身の意味論」『日本語文法 体系と方法』（川端善明・仁田義雄編）ひつじ書房 pp.118-186
- ・ _____(2000)「ヴォイス」『日本語の文法1 文の骨格』岩波書店 pp.117-186
- ・ 鈴木重幸(1972/1987)『日本語の文法・形態論』むぎ書房 pp.276-284
- ・ 角田太作(1991)『世界の言語と日本語』くろしお出版 pp.117-224
- ・ 寺村秀夫(1982)『日本語とシンタクスと意味I』くろしお出版pp.212 254
- ・ 白明学(2004)「現代日本語の受身について」 「名古屋大学言語学論集第19巻」 pp.67-80
- ・ 益岡隆志(1991)「受動表現と主観性」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版 pp.105-121
- ・ 松下大三郎(1928/1974)『改撰標準日本文法』 勉誠社 pp.351-362
- ・ _____(1930/1977)『標準日本口語法』 勉誠社
- ・ 三上章(1972)『現代語法序説』くろしお出版 pp.98-112
- ・ 村木新次郎(1991)『日本語動詞の諸相』ひつじ書房 pp.173-200
- ・ 山内博之(1997)「日本語の受身文における「持ち主の受身」の位置づけについて」『日本語教育92号』 pp.119-130
- ・ Harada,S.I.(1973) “ Counter Equi NP Deletion,”
- ・ _____.(1973)“ Counter Equi NP Deletion,” Annual Bulletin7, University of Tokyo pp.113-147

《用例を採集した作品及び本稿における表記》

- ・ 李良枝1989『由熙』（由）、黒柳徹子1991『窓際のトットちゃん』（ト）、三浦綾子1978『氷点』（氷）、宮本輝1995『彗星物語、下』（彗）、宮部みゆき1998『火車』（火）、吉本バナナ1996『とかげ』（と）

要 旨

現代日本語における受身文は、「直接受身」と「間接受身(迷惑の受身)」という二つのタイプに分類する見解と、直接受身と間接受身の両方にまたがる性質を持つとされる「持ち主の受身」を含める三分法が一般的な見解であるが、その境界をめぐって統一的な見解が得られているわけではない。

そこで、本稿では日本語の受身文を統語特徴・視点解釈・動詞の意味との関わりから考察、統語的に均一ではない受身文のタイプが、視点解釈・動詞の意味の関与度においても異なる様相を呈することを示し、「被影響性」という意味特徴から「報告型受身」、「評価型受身」、「被害受身」の三つのパターンを提案する。

キーワード：付随者の受身、被影響性、報告型受身、評価型受身、被害受身

투 고 : 2007. 5. 31
1차 심사 : 2007. 6. 9
2차 심사 : 2007. 6. 30

住 所 : (464-0815) 名古屋市千種区幸川町2-38-2 ムーニー中川 2 0 2 号
電 話 : 81-90-4441-1004
e-mail : meigaku100@gmail.com